

軍事力強化や威嚇で 平和は守れない



ウクライナの悲劇が連日報道されています。ロシアは圧倒的な軍事力で3ヶ月以上にわたってウクライナ東部2州の完全支配をねらった無差別爆撃と殺戮戦を続けています。家族とはぐれ街をさまよう子どもの姿は、私が3歳の時に経験した東京空襲による疎開体験と二重写しになります。それは、幼かった私の記憶というより父母の話によるものですが、栄養失調で痩せて弱々しい子供だったことをおぼろげに覚えています。プーチンが始めた戦争のために、1400万人近いウクライナ市民が国内外に避難し、子どもを含めた犠牲者は数千人と言われています。ロシア兵の戦死者は3万6千人を超え、動員された兵士の1/4になるといいます。開戦時、軍事力が圧倒的に優位と言われたロシア軍が、戦場で劣勢なのは、ウクライナの兵士が「祖国を守る」という高い志を持っているからでしょう。

しかし、戦争の長期化は、双方に戦死者を拡大することは明らかです。他国への侵略は絶対に許してはなりません。停戦への道は早期に実現されるべきです。岸田政権は、ウクライナへの武器援助とロシアへの経済封鎖でロシアの弱体化を目指すバイデン大統領の戦略に追随するのみで、日本の立場と東アジア平和を見据えた戦略的な外交政策は全く見られません。ウクライナの悲劇から学ぶべきことは、軍事力の強化や威嚇で平和は作れないということです。国家間の紛争は「武力の行使や威嚇」によらないという憲法9条や国連憲章の理念を実現することです。

首都圏の原発が攻撃されたら、どうなる？

ロシアがチェルノービリ原発を占拠し、稼働中のサボリー

全造船関東地協労働組合

一人でも誰でも入れる労働組合 **よこはまシティユニオン**

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp> 【2022年6月11日】

ジャ原発を攻撃しました。原発が砲撃の標的にされた初めてのケースとして世界中に衝撃を与えました。5月13日の東京新聞に、国内の原発が武力攻撃を受け、格納容器が破損し放射性物質が外部に放出された場合の影響について、研究報告が掲載されました。発表したのは環境経済研究所。東京に近い東海第二原発、柏崎刈羽原発、浜岡原発が対象で、炉心から放射性物質が外部に放出したとき、東京方面に風が吹く最悪ケースで見ると、東京に一番近い東海第二原発だけでなく、柏崎刈羽、浜岡原発のケースでも、東京・埼玉・神奈川など首都圏の広い範囲が立ち入り禁止や強制移住の厳しい規制対象地域になることが分かりました。原発は建設当初から（真面目に考えて反対する人たちを除いて）、テ

ロや武力攻撃を受けることは想定外とされてきました。ウクライナの現実は、原発の存在そのものが対処方法がないリスクであることを実証したのです。



今こそ憲法9条の理念を、世界に！

今、日本の針路が問われています。アメリカに追随するだけの外交戦略を転換し、憲法理念に基づく平和外交に踏み出すべき時です。7月の参議院選挙は、防衛費倍増・軍

拡を進めようとする岸田政権にNO！を突き付ける時だと思っています。原発や核共有によるエネルギー政策・防衛戦略からの脱却が必要です。私たち一人一人の「平和への意志」を示しましょう！

【組合員Y】

■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起しましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4〜8次の下請会社で稼働しています。3・11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！